

第6部 2018年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や感想をまとめています。

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

山の針葉樹(植林)と広葉樹(自然林)のバランスを保ったり、植林の間伐を適切に行ったり、広葉樹を薪炭材やキノコの原木に使用するなどして、水源涵養や防災機能が維持され、生物多様性が向上するように管理することが大切です。モウソウチク林の管理も必要な時期になっています。

また、持続可能な社会を実現するため、ペレット・薪ストーブ等をより一層普及させたり、朝来バイオマス発電所へチップ原木を供給するなど、森林資源を有効に活用していくための更なる施策を期待します。

昨今、人々が山林に入る機会が減り、境界すら分からない所有者が多くなっていますが、森林環境譲与税等を活用し、山林を適切に管理できる仕組み作りを行う必要があります。

目標像②里山が様々な利用され、関わる人が増えています

防護柵の設置が進んでいるにも関わらず、農林業被害額が増えています。統計に表れない家庭菜園もシカ、イノシシ、サル等の被害を受けており、経済的損失のみならず、生きがいを喪失するなど心身の健康への影響も懸念されます。防護柵や電気柵を適切に使用するため、設置者が定期的に巡視し、草刈りをしたり、壊れた箇所を修繕するなど日頃の点検とメンテナンスを進めることを期待します。

また、有害獣対策で捕獲されたシカ等の命を無駄にせず活用するために、食肉処理施設の整備や、消費につながるジビエマップの作成やペットフードを生産する業者などとの連携を望みます。

過去に里山整備をされたが利用が低迷して、藪に戻ってきている場所があります。神社の森など地域を代表する森も維持するために、大切に利用することが大切です。

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

学校給食への県内産食材の利用については、政府推奨値を達成していますが、そのことが広く知られていません。市内農産品の生産を後押ししたり、家庭での消費につなげられるよう学校給食で地元の野菜が使われていることを積極的にアピールする必要があります。また、国の目標を達成している現状に満足せず、豊岡市独自のより高い目標を設定することを提案します。今後は、保育園・子ども園の給食に地元の無農薬・減農薬農産物の使用が促進されるような取り組みを期待します。

一方、各地で増え続ける休耕田は、ビオトープ水田に転換するよう働きかけるとともに、大人にも環境学習の場として利用してもらえよう周知していく必要があります。

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がかきこえてきます

間伐材を取り付けた鋼製漁礁は、漁礁機能の向上と間伐材利用の推進だけでなく、間伐材が腐朽後に自然に還ることから、循環型社会形成への貢献が期待されます。漁礁設置推進の継続が望まれます。

また、丸石河原は子どもたちが楽しく遊べる場所ですが、近づく道が失われているところが多くなりました。草を刈って道を作ったり、河川・海岸の清掃活動を継続・拡大し、子どもたちが遊べる環境の維持や子どもたちに遊びの機会が提供され続けることを期待します。

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

コウノトリも住める豊かな生態系を維持していくためには、人々の生活とバランスのとれた自然の保全・再生を進め、維持していくことが大切です。

2018年に拡張されたラムサール条約湿地の重要性を周知するとともに、加陽湿地で取り組むフジバカマの再生事業等の活動が広がることを望みます。そのためには、それぞれの地域が自分たちの住む地域の自然の特性を知ることが大切です。

また、外来生物によって豊岡本来の生態系が崩れていますので、影響の著しい外来生物の駆除・防除の取組みが強化されることを望みます。

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

文化や行事を次の世代につなげていくには、過去の資料が重要です。定期的な調査によって、「豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書」の質と量を高めたり、存続が危ぶまれている行事を広く知ってもらうため、動画で発信するなどの場を作ることを提案します。

また、多くの重要な資料が収蔵できるよう使われなくなった学校や空き教室等を活用することの検討を望みます。

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

最近、虫に触れない子どもたちが多くなっていますが、学齢期終了までに田んぼや川で遊ぶ機会がないと、ますます苦手になっていきます。学校教育だけでは得られない体験の機会を、地域のボランティアや地域コミュニティと一緒に増やすことを望みます。

また、豊岡の豊かな自然の中にいる生きものの名前やその暮らしが実感できるよう、可視化する取組みを期待します。

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

ごみの分別収集は20～30年前と比べるとずいぶん進んでいますが、分別収集までした先の処理がどうなっているのかは、市民には十分には伝わっていません。ごみの分別意識を高めるためにも、処理の流れと成果の更なる周知を望みます。

また、風船を飛ばしてイベントを盛り上げるような場面がありますが、合成樹脂を含む石油由来の物質は、自然界では容易に分解されず、多くが数百年以上もの間残り続け、海や陸域の生態系に影響を与え続けます。環境に配慮し使用を控えるなどの意識を持つような啓発が必要です。イベントでの使い捨て容器の回避も喫緊の課題です。

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

15分以上運動した市民の割合を競う「チャレンジデー」は、多くの市民が意識的に運動に取り組む機会になっています。例えば「省エネの日」「マイバッグの日」のような日を作り、「今日は待機電力を減らしましょう！」「レジ袋は使いません！」といった投げかけの仕組み作りを提案します。

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

環境経済認定事業者はもちろん、さまざまな地元企業が地域の環境保全に貢献していることをもっと市民や来訪者に周知することを望みます。

インバウンド効果で訪れる外国からの来訪者には、翻訳アプリやQRコード読み取りによる解説表示などの機能を活用し、国際化にも対応することを期待します。

(2) まとめ

第2次環境基本計画の推進2年目にあたる今年度の評価は、「よくがんばりました」が2項目(目標像③⑦)、「この調子でがんばろう」が6項目(目標像②⑤⑥⑧⑨⑩)、「もっとがんばろう」が2項目(目標像①④)でした。昨年度の評価と比べますと、「もっとがんばろう」が1項目減り、「この調子でがんばろう」が1項目増えましたので、全体としてみると諸課題への取組みは、徐々に進展しているように思われます。環境審議会としては、「もっとがんばろう」評価が、なくなるような取組みを切に期待し、提案をおこないました。

目標像①については、間伐未利用材等の活用に関する豊岡市の施策が、ペレット原料から朝来バイオマス発電所への供給に大きく変わりましたので、それにともなったさまざまな取組みを期待します。第2次環境基本計画の大きな特徴は、豊岡市の環境をよりよいものにするために市の面積の8割を占める森林の活用を通じた保全が急務であるという考え方のもと、目標像①②が「山」に関するものになっていることです。そのため、目標像①への取組みに、いっそう注力することが望まれます。

目標像④の評価は、2年連続で「もっとがんばろう」でした。とはいえ、地域住民やボランティアによって市内の河川や海岸の清掃活動が続けられています。このような地道な市民活動は、「川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」という目標像の実現に向けた基盤になると思われます。

最後にすべての目標像にかかわりますが、近年、外国からの旅行者や居住者が増えつつありますので、今後の市の施策や市民・事業者の活動に、そのような人々を視野に入れることがいっそう求められるでしょう。

2019年12月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣		
	副会長	雀部 真理		
	委 員	内海 京子	・ 太田垣秀典	・ 岡崎 典子
		日下部昌男	・ 毛戸 勝	・ 島崎 邦雄
		菅村 定昌	・ 土川 忠浩	・ 寺田 正文
		友田 達也	・ 中村 肇	・ 橋本 道江
	山田 博文			

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町 2 番 4 号

電 話 番 号：2 1 - 9 0 1 7（直）

F A X 番 号：2 4 - 7 8 0 1

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：